

学級活動（２）指導略案

1年3組 23名 指導者 石原 綾

○ 本実践は、以下の検証を行うものである。
紙芝居を読んだり、写真を提示したりすることで一人一人に自分の食生活について振り返りをさせ、自分の課題に合った自己決定を促すことができるのではないか。

1 題材名 たのしいきゅうしょく（学級活動（２）ーカ）

2 題材について

食は人間が生きていく上での基本的な営みの一つであり、特に成長期の子どもにとって、健康な心身を育むために健全な食生活は欠かせないものである。また、子どもの頃の食生活は、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすもので極めて重要であり、一度身に付いた食習慣を大人になって改めることは非常に困難なことである。このため、この期の子どもに、食についての知識を理解させたり、食事のマナーを身に付けさせたりする必要がある。

そこで本題材では、入学して約1か月が経ち、学校給食を食べ始めた子どもに、自分の食生活に関する内容について振り返らせたり、食生活についての大切さや学校給食の楽しさに気付かせたりしていき、実践意欲を高め、具体的な取組を自己決定させていくようにする。この題材を通して、「食べ物を残さず食べたいな。」「食事のマナーを守れるようになりたいな。」といった子どもの食生活への意欲を向上させることは、一人一人の望ましい食習慣を形成することにつながると考え、本題材を設定した。

3 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	5/16	1 食事のときに気を付けることを考える。	○ 子どもや保護者に食事の際に気を付けていることなど、これまでの食生活についてのアンケートを行い、残食や偏食、食事のマナーについて振り返らせる。	☒ これまでの食生活を振り返り、学校や家庭でアンケートに答えている。〈アンケート〉
本時	5/18	1 食べ物の大切さや食事のマナーについて考える。 2 今後取り組んでいくことを自己決定する。	○ これまでの食生活を振り返らせ、食べ物の大切さや食事のマナーについて考えさせることで、食べ物を残さず食べたり、食事のマナーを守ったりしたいという子どもの意欲を高める。 ○ 学習したことを基に、今後どのように実践していくかを自己決定させる。	☒ 食生活の大切さについて理解している。〈発言〉 ☒ なぜ、食事のマナー等が大切か考えている。〈観察〉 ☒ 残さず食べたり、マナーを守ったりしようという意欲をもつことができている。〈発言〉
事後	5/19～	1 自己決定したことを実践する。	○ 給食時間、残さず食べ物を食べたり、食事のマナーを守ったりしている子どもを称賛する。 ○ 家庭での取組について保護者からの感想を紹介し、自分の頑張りを改めて実感させ、実践への意欲を高める。	☒ 自己決定したことを実践している。〈行動、食生活カード〉

4 本時の活動

(1) 目標

これまでの食生活について振り返らせ、食べ物の大切さや食事のマナーの大切さについて理解させることで、食事のマナーを守りながら正しく楽しく食事をしようという意識を高める。

(2) 評価規準

○ 食生活の大切さについて理解し、自己の課題を解決する方法を自己決定しようとしている。

【集団の一員としての思考・判断・実践】

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、まず、学習に対する興味・関心を高めるために当日の朝活動の時間に読み聞かせをした本の主人公について触れる。その後、写真を提示することで自分の食生活について想起させ、どのような食事の時間を過ごしたいのか考えさせる。

次に、紙芝居を提示し、食べ物のお気持ちなどを考えさせる。また、実際に給食を作っているところや調理道具を見せることで作る人の想いに気付かせる。

最後に、楽しく食事をするために自分が頑張ることを自己決定し、実践意欲を高めることができるような手立てを工夫する。

(4) 本時の展開

時間	活動内容	・予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
10	<p>振り返る</p> <p>1 これまでの自分の食生活について想起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あっくんは、好きなものしか食べてないよ。 ・ わたしも嫌いなものが出てくるとは、給食が嫌なんだよね。 ・ 僕も給食の時、残って食べたことがある。 ・ こんなにご飯粒残していたんだ。 ・ 楽しくご飯を食べたいな。 ・ どうしたら楽しくご飯が食べられるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝活動で行った読み聞かせの本の内容について触れ、本に出てくる人物の行動や心情を確認させながら、これまでの自分と似ているところや違うところを見付けさせる。 ○ 自分たちの食事の写真（食器にご飯粒や野菜のついた写真）を提示することで、自分の食生活について想起させる。
	<p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>たのしくごはんをたべるためには、どうしたらいいのだろう。</p> <p>必要性</p> <p>3 食生活の大切さや食事のマナーについて考える。</p> <p>解決法</p> <p>4 楽しい食事にするために取り組んでみたいことを話し合う。</p> <p>5 自分が取り組みたいアイデアについて自己決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜はどんな気持ちなのかな。 ・ 捨てられる野菜がかわいそう。 ・ 残さずに食べられているかな。 ・ お皿に一粒もご飯粒を残さないようにしよう。 ・ つがれた分は全部食べよう。 ・ 給食を作るって大変だな。 ・ こんなに大きな道具を使って作るなんてすごいな。 ・ 給食の先生達が頑張ってくれているのだから、残さず全部食べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい食事にするための方法を考え、取り組みたい内容を自己決定するという見通しを持たせる。 ○ 紙芝居を提示し、食べ物のお気持ちなどを考えさせる。 ○ 給食を作っているビデオを見せたり、実際に使用されている調理道具を見せたり触らせたりすることで、作る人の想いに気付かせる。 <p>知食の大切さについて理解している。 〈発言〉</p>
28		<ul style="list-style-type: none"> ・ 好き嫌いなく全部食べたい。 ・ お皿にご飯粒が残らないように食べたい。 ・ 牛乳をひっくり返しても、こぼれないくらい飲みたい。 ・ 時間内に食べ終わりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いにおいてはペアで話し合わせることで、多様な考えを引き出すことができるようにする。 <p>思なぜ、食事のマナー等が大切か考えている。 〈観察〉</p>
7	6 活動を通じた感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明日から好き嫌いなく食べるよう頑張ろう。 ・ きれいに食べよう。 ・ 家でも頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感想の交流を通して、必要性を確認させる。 ○ 保護者からの手紙を読むことで、解決法の実践に向けた意欲付けを図る。